

さいたま 来ぶらり通信

Contents

さいたま市図書館の刊行物 1,2 本欄ぶらり テーマ「図書館」..... 3
「第7回さいたま子ども短歌賞」/さいたま市図書館 Twitter 4

わがまち

Sai 発

はっけん



読めば広がる新世界!

さいたま市図書館の刊行物

さいたま市図書館では、多くの刊行物を編集・発行しています。各図書館の特色を活かした独自のものもあれば、全館共同で発行しているものもあり、内容も大人向け・子ども向けと様々です。

今回はそんな図書館の刊行物を紹介します。ぜひ実際にお手に取ってみてください。

各図書館の独自の刊行物

『Train Library』(大宮西部図書館発行)



表紙は、かわいいSLのイラストです!

鉄道の歴史に関わりの深い地域にある大宮西部図書館では、鉄道に関する資料を集めたコーナーを設けています。この「鉄道コーナー」の本を中心に、鉄道にまつわる魅力あふれる本を紹介するのが『Train Library』です。

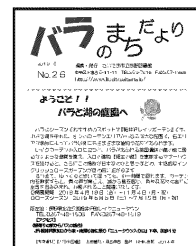
年3回(2月・6月・10月)の発行です。

「駅」「地方の鉄道」など鉄道に関するテーマに沿った本の紹介や、「鉄道オタクの先駆者 内田百閒」といった鉄道好きの人物とその著書の紹介などを掲載しています。

『バラのまちだより』(与野図書館発行)

「中央区の花」が「バラ」であることにちなみ、中央区にある与野図書館では、バラが登場する本や、バラの歴史、バラの花びらを使った手芸・工作などの知って得する話を紹介する『バラのまちだより』を発行しています。バラが見ごろを迎える5月と、秋バラが咲く10月の年2回発行です。

今年5月発行の「No.26」では、図書館員おすすめのバラの花鑑賞スポットの案内や、「ノックアウト」「しのぶれど」といったユニークなバラの品種名とその由来、『常陸国風土記』から見る茨城の地名とバラの関係を取り上げています。

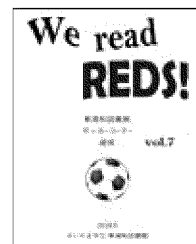


毎号読めば
あなたもバラ博士

『We read REDS!』(東浦和図書館発行)

東浦和図書館は、埼玉スタジアム2002と同じ緑区内にあり、浦和駒場スタジアムにも程近い、「サッカーのまちの図書館」です。「サッカーコーナー」を常設し、浦和レッズと連携した本の展示なども行っています。

『We read REDS!』は、サッカーの歴史や歴代の名選手についてちょっぴり詳しくなれる本や、地域のサッカー情報などを紹介したリーフレットです。年2回(3月・9月)の発行です。



赤・黒・白の
レッズカラーが目印



『hap・py→go→luck・y (はぴ)』

毎号1つのテーマの下に、10代向けのおすすめの本を紹介しています。年4回(4月・7月・10月・1月)の発行です。特に、「ビブリオバトル」(注)の結果を取り上げる号では、ビブリオバトルと同じテーマで選んだ本を紹介し



を紹介します。

各図書館では、『はぴ』で紹介している本の展示を行っていることもありますので、ぜひご利用ください。

(注) 本の魅力を伝える知的書評合戦。定められたテーマに沿って、各発表者が選んだ本のプレゼンを行い、最も魅力的な印象を伝えることを競います。さいたま市では、毎年夏に中央図書館で、市内の中高生が参加する「ビブリオバトルはぴの陣」を開催しています。

『本は王さま』

4月23日の「子ども読書の日」を記念し毎年発行している、子ども向けのおすすめ本を紹介する冊子です。



『本は王さま』に掲載する本は、新刊の児童書の中から各図書館の児童サービス担当者が候補を選び、何度も意見を交わしながら決定しています。

何か面白い本はないかな、そんな時に開いてみると、すてきな1冊が見つけれられるかもしれません。



他にも、こんな刊行物があります

- ・『としょ丸しんぶん』(年4回発行)
- ・『としょ丸どくしよてちょう』
- ・『あえるといいね! すてきな本』
- ・『すくすく読み聞かせダイアリー』
- ・『読み聞かせブックリスト』
- ・『さいたま来ぶらり通信』(年3回発行) など



身近な地域の歴史に触れる刊行物



『北浦和歴史再発見』(北浦和図書館/編、2014年)

昭和49(1974)年に開館した北浦和図書館が40周年を迎えるに当たり、開館前後の昭和30~50年代の北浦和地域の姿を冊子にまとめたものです。地域の方々からの資料提供や聞き書き、残された写真のほか、当時の新聞記事・新聞広告や住宅地図も収めています。

『岩槻の地図を見る』(岩槻図書館/編、2014年)

江戸時代の岩槻の城・城下町を描いた絵図や、岩槻宿を含む日光御成道の経路図、明治から現代までの岩槻の地図などを調べるのに役立つ資料をまとめた、パスファインダー(注)です。

(注) 特定の主題に関する資料や情報の探し方をまとめたリーフレット。資料・情報を探すための「道しるべ」、「道案内」などとも言われます。

他にも、こんな刊行物があります

- ・『子どもと本の心星瀬田貞二の世界』(中央図書館/編、2009年)
- ・『北浦和れきし図書館1~3』(北浦和図書館/編、2012~2013年)
- ・『藤山一郎と昭和歌謡』(与野図書館、2011年)
- ・『岩槻の歴史を調べる』(岩槻図書館、2015年) など

本棚 ぶらり

テーマ 図書館



『図書館 100 連発』

おかもと まこと
岡本 真・ふじた まさえ／著
青弓社 2017年



「一つひとつは小さな知識でも、100 という数が集まることで大きな価値になる」と筆者が言うとおり、本書では、全国各地の図書館が行っている創意工夫が100通り紹介されている。

たとえば、定期的にトークイベントを行って地域の人と協働で情報や知識を生み出す拠点を作ったり、開けてみるまでどんな本が入っているか分からない「福袋」を企画したり、事例の大半は予算をほとんど必要としないアイデアばかりである。

さりげない緻密な工夫を見つけに図書館へ足を運びたくなるような一冊。

『世界の図書館』

ジェームズ・W.P. キャンベル／著
ウィル・プライス／写真
桂 英史／日本語版監修
野中 邦子・高橋 早苗／訳
河出書房新社 2014年



図書館建築の歴史は、変化と順応で満ちている。それは、図書館に求められる機能や、本の価値・形態が古今東西で異なるからだ。叡智の象徴として見せるため豪華に作られたこともあれば、グループ作業のように様々な活動を行う場所として作られたこともある。

蔵書の保全にも多様な手段が取られてきた。本を湿気から守るため、棚の間の風通しを良くしたり、逆に本を箱に入れて完全に密閉したり。盗難対策も様々で、西洋で本一冊と家一軒が同等の価値だった時代、見た目からも分かるほど強硬な手段が取られていた。はたしてその手段とは。

各時代・地域の理想を具現化した図書館の姿を、全ページに渡り写真で伝える迫力の一冊、ぜひご覧あれ。

『アルカイダから古文書を守った図書館員』

ジョシュア・ハマー／著
かじやま
梶山 あゆみ／訳
紀伊国屋書店 2017年



2012年夏、アフリカ西部のマリ共和国トンブクトゥで、勇敢な男と仲間たちが命がけで古文書救出作戦に乗り出した。男の名はハイダラ。

ハイダラは古文書の収集と保護に情熱を傾け、自身の図書館を設立し、アフリカの失われた歴史と文化を世界に発信していた。しかし、トンブクトゥの街がイスラム過激派に占拠されて以降、彼らの理想に反するものはすべて排除されるようになる。古文書も例外ではなく、貴重な古文書を所有する国立研究所が燃やされた。ところが、焼失したのは一部のみだったことがわかった。ハイダラはどのようにして作戦を成功させたのだろうか。

本書では、イスラム教徒の間での「寛容」と「不寛容」の思想の対立、武装勢力との緊迫した戦いを、克明に描いている。

『ラオス 山の村に図書館ができた』

やすい きよこ
安井 清子／著
福音館書店 2015年



東南アジアの内陸国ラオスの、少数民族モン族が住む小さな村で、民話の研究活動をしていた筆者。思いがけない巡り合わせで、村に図書館をつくる取組みを始めた。

当初は「図書館とは何なのか」も知らなかった村の人々も、1年余りにわたる共同作業を通して、図書館への関心を高めてきた。村の小学生たちも、家事や農作業の手伝いで忙しい合間に、作業に協力してくれる。

2007年2月、オープンの日を迎えた、村の図書館。その後、著者の手を離れ、村の人々により運営されるようになった図書館の様子はどうか。

新たにつくられた図書館が人々の生活に根付いていく姿を通して、「図書館とは何なのか」、あらためて考えさせられる。

「第7回さいたま子ども短歌賞」応募作品を募集します！

短歌を通して児童生徒の豊かな感受性と国語力をはぐくみ、伝統的な言語文化の継承を図るために「さいたま子ども短歌賞」を開催し、作品を募集します。



対象 小・中学生

応募方法 所定の応募票に記入して、応募先にお送りください。応募票は、各図書館・各公民館で配布しているほか、さいたま市ホームページからダウンロードできます。

応募期間 令和元年7月18日(木)から9月6日(金)まで(必着)

賞 優秀賞20首、入選80首
※入賞作品で作品集を作成します。

**応募先
お問合せ** さいたま市教育委員会生涯学習振興課
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6-4-4
電話 048-829-1705
FAX 048-829-1989
E-mail shogai-gakushu-shinko@city.saitama.lg.jp

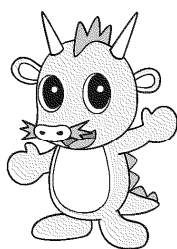
さいたま市図書館 Twitter を ご利用ください！

さいたま市図書館では、「Twitter」で情報を発信しています。

図書館からのお知らせや書籍の紹介などを掲載していますので、どうぞご覧ください。

アカウント名 @SaitamaCityLib 「さいたま市図書館」

・いま注目の本
・資料の展示
・イベントの開催
など、様々な情報をお届けします



臨時休館のお知らせ

「さいたま市図書館施設リフレッシュ計画」に基づく修繕工事のため、下記の図書館が臨時休館しています。ご不便をおかけしますが、安全で快適な図書館としてご利用いただくため、ご理解ご協力をお願いいたします。

岩槻駅東口図書館

令和元年7月1日(月)から
令和2年2月中旬まで(予定)
詳しくは岩槻図書館にお問い合わせください。

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<https://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <https://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

| | | | |
|------------------|-----------------|-------------------|------------------|
| 北浦和図書館 832-2321 | 馬宮図書館 625-8831 | 与野図書館 853-7816 | 桜図書館 858-9090 |
| 東浦和図書館 875-9977 | 三橋分館 625-4319 | 与野南図書館 855-3735 | 大久保東分館 853-7100 |
| 美園図書館 764-9610 | 春野図書館 687-8301 | 西分館 854-8636 | 北図書館 669-6111 |
| 大宮図書館 643-3701 | 大宮東図書館 688-1434 | 岩槻図書館 757-2523 | 宮原図書館 662-5401 |
| 桜木図書館 649-5871 | 七里図書館 682-3248 | 岩槻駅東口図書館 758-3200 | 武蔵浦和図書館 844-7210 |
| 大宮西部図書館 664-4946 | 片柳図書館 682-1222 | 岩槻東部図書館 756-6665 | 南浦和図書館 862-8568 |

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100 FAX 048-884-5500

★★編集後記★★ 今号で紹介した刊行物『本は王さま』に掲載した本の一部を、さいたま市図書館 Twitter でも紹介しています。

次回発行予定：11月15日(年3回発行)



もっと身近に、
もっとしあわせに



さいたま来ぶらり通信は、2,000部印刷し、一部あたりの印刷経費は20円です。